

緊急出版、業界新聞でも注目！

—— 電子書籍「今、海から日本が危ない！」 ——

全日本内航船員の会 事務局

陸上社会へ向けた船員カボタージュ本、内航海運新聞で紹介

今月（平成 23 年 3 月）の政府閣議によって、議論・結論にまで進む見通しが報道されたカボタージュ規制撤廃案。この事態を受けて現場船員の立場からの緊急出版となった電子書籍「今、海から日本が危ない！」が内航海運新聞でも取り上げられました。

電子書籍サイトでは、ノンフィクション部門 新刊 1 位の王冠

陸上の一般の方へ向けて発信する SOS。現在も閲覧者数は連日増え続けています。公開中の電子書籍サイト「Paboo」のノンフィクション部門（新刊）では、一週間 1 位の王冠を受けていました。

カボタージュ規制の撤廃によって懸念されている様々な事態は、一般の市民生活に大きな犠牲を強いる心配のある問題です。多くの海事関連団体で社会へ向けた注意喚起が間に合わない状況となっていますが、船員の責任感から陸上社会へ向けて緊急に発信された思いが、広く社会的、或は文化的な議論として一般の方の心に届いてくれることを願っています。

（内航海運新聞 平成 23 年（2011 年）3 月 14 日付 第 2184 号）

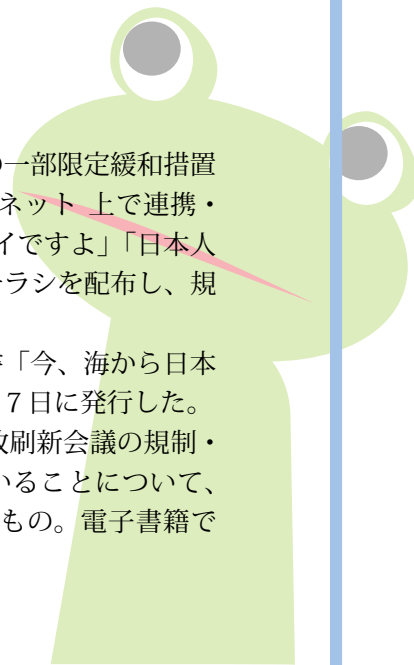
カボタージュ規制緩和反対の 『今、海から日本が危ない』電子書籍

3 月 7 日発行、サイトでいきなりトップ

昨年、沖縄と本土間の海上輸送について、カボタージュ規制の一部限定緩和措置が実施されたことに反発し、8 月に内航船員の有志がインターネット上で連携・組織している「内航船員の会」が、「カボタージュ緩和でシンパイですよ」「日本人の船員さんがいなくなっちゃうかも知れないんだって」というチラシを配布し、規制緩和反対をアピールしたことがある。

その「内航船員の会」が今度は、元内航船員の貝塚渡氏の著書「今、海から日本が危ない！」の出版に協力。電子書籍として海の上文庫から 3 月 7 日に発行した。

内容は、昨年のカボタージュ規制の一部緩和に続き、政府行政刷新会議の規制・制度分科会が、「カボタージュ規制の見直し」の検討を進めていることについて、内航船員の立場から、カボタージュ規制堅持の必要性を訴えたもの。電子書籍で 22 ページに及んでいる。



この電子本は発行後、丸1日で閲覧者88人、ダウンロードした人が15人と注目を集めている。しかも、電子書籍サイト「パプー」の新刊(1週間)のノンフィクション部門で、いきなりトップ(王冠)に躍り出た。

今回、電子本の出版に協力した「内航船員の会」の松見準氏は「海事に関心のない現在の政府・日本から『これは問題だ』と気がつく機会になってくれれば、この先の内航海運の立場は変わってくるはず。考えるきっかけを内航関係者に呼びかけなくてはならない時だと思う。日本社会でそんな規制緩和の強行を求めているのが、ごくごく一部の人間なのではないか、という気がしてくる」とコメントしている。

電子書籍「今、海から日本が危ない!」の閲覧・ダウンロードは、
<http://p.booklog.jp/book/20659>



● 追記

平成23年8月21日時点での閲覧者数は1,983人、ダウンロードしてくれた人は93人と、まだまだ読まれている。大震災、原発事故を経て、行き過ぎた利益優先の考え方によって被ることとなった一般市民への被害損害について、今一度社会のあり方から考え直さなくてはならない風潮も出て来ていると感じる。

4月8日、政府の行政刷新会議の規制・制度改革に係る方針にカボタージュ規制の見直しは含まれなかった。今後調整を行い別途閣議決定を行うとしている。根が深いカボタージュ撤廃待望論。市民生活の目線から引き続き厳しい目で注目していかなければならない。